

「まちの将来像」のたたき案

【総計における前提】

●次期総計で重視する点

- ・ まちの暮らしやすさ等を強調（ウェルビーイング、幸せ 等）
- ・ 量より質の考え方
- ・ 今あるものを結び合わせてより良いものを生み出していくというコンセプト
- ・ 長いものは避ける（コンパクトで覚えやすいもの、印象に残るもの）
- ・ 市が今後打ち出していく方向性として 市民、事業者と共有していくもの

<参考：現行計画（第6次総合計画）>

- ・ ひと、自然、歴史文化を育み笑顔輝くはびきの ～みんなでつくる だれもが住みたいまち～

【市の今後のブランディングにおける前提】

●都市魅力戦略課が作成し、市として今後打ち出していくブランディングイメージ

<参考>ブランドコンセプト案：「ちょっといいがそこにある」 “羽曳野”

…過剰な誇張ではなく、地域に住む人々や訪れる人々に対して、日常的に手に入る小さな幸せや充実感を実感してもらうことを狙いとし、身近で現実的な魅力を伝えてゆくことを目的とするコンセプト

➡ ※視点が現在か未来かで異なるが、暮らしやすさや幸福感を重視する点について、大きな齟齬はない

【基本線】 現行のベッドタウンとしてのあり方を軸としつつ、より暮らしやすい、住みよいまちをめざす

◎本題案

★上述の基本線を踏まえ、職員アンケート等から抜粋・作成

No.	フレーズ	考え方・備考
1	ハビタットはびきの	●ハビタット（habitat） 1.〔動植物の〕生息環境、生息地、生息場所 2.〔人の〕居住環境、居住地、すみか →住みよいまちとしての市のPR、「はび」の語呂、「豊かな自然」と「利便性の高い住宅地」の双方を兼ね備えたまちのイメージ
2	別途タウン はびきの	●これまでの羽曳野市の発展の礎であった「大都市近郊のベッドタウン」としてのあり方を軸としつつ、単なるベッドタウンにとどまらない「別途」の要素を併せ持つまちをPR（特産物、歴史資産、豊かな自然 etc.） ※時代の転換期に、これまでと異なる手法・あり方（別途）を指向していくニュアンスも含む
3	ベッドタウンからグッドタウンへ	●単なるベッドタウンから、魅力ある「より良いまち（グッドタウン）」を指向 ※量から質への転換という次期総計のコンセプトにも近似
4	ゆりかごのまち はびきの	●羽曳野市の形がゆりかごを側面から見た形を想起させることから次世代を育て、大人もほっとできるまちのイメージ ※古墳や最古の官道・竹内街道、河内源氏のふるさと等、日本の歴史を育んだ故郷というニュアンスも反映可能

5	幸せの花が芽吹き、煌くの どかなまち	幸せの「は」なが、芽「ぶ（び）」き、「き」らめく「の」どかなまち 「幸せの花が芽吹く」という表現には、市民一人ひとりの幸福感や well-being が育まれていく未来を込めている。歴史と自然に恵まれた環境の中で、家族や地域のつながりが深まり、安心して暮らせる土壌が整うことを願っている。 「煌くのどかなまち」というフレーズは、羽曳野市の豊かな自然環境や落ち着いた生活の質の高さを表現している。都会の喧騒から離れ、心が穏やかになるようなゆったりとした空気感と、美しく輝く未来への希望を重ね合わせている。 この言葉は、歴史と文化を尊重しながらも、現代の健康・幸福志向を融合させたまちづくりの理念を端的に伝え、羽曳野市がこれからも住み続けたい「のどかで幸せなまち」であることを内外に発信する。
6	はびきの市宣言	●ウェルビーイング推進の観点から、市民の幸福度を上げることをめざす。 →Happiness（ハピネス）×羽曳野（はびきの）＝はびきの <参考> 類例：橋本市の子育て情報サイト「はぴもと」

◎副題案

★上記の本题（フレーズ）に付記することで補強・補足

No.	フレーズ	考え方・備考
A	— 食う寝るところに住むところ —	…落語「寿限無」の一節（縁起の良いものの一例） ※「食のまち」「ベッドタウン」「住みよいまち」を一体的にまとめる
B	— しあわせ結ぶ ウェルビーイングの まち —	…次期総計で重視するウェルビーイングを掲げ、市民の幸福度を高めていくことを指向
C	— 多様なつながりが奏でる、幸せと未 来の交差点 —	…羽曳野市が人や情報、文化など様々なつながりを生み出す拠点であることを示すそのつながりが市民の心の豊かさや将来の発展を育み、新しい未来へとつながっていく様子を表現
D	— 自然の恵みと便利さが織りなす、健 やかな日々 —	…豊かな自然環境を大切にしながら、生活の利便性も充実したまち心も体も健やかに過ごせる、バランスの取れた暮らしを実現するまちづくりの理念を表現